

## 平成29年度第3回 伊那市総合教育会議会議録

- ◎招集年月日 平成29年 11月28日(火)
- ◎開催日時 平成29年 12月18日(月) 午後3時30分～5時20分
- ◎場所 伊那市役所 庁議室
- ◎出席者 白鳥市長、松田教育委員長、宮脇教育委員長職務代理者、原田教育委員
- ◎欠席者 田畑教育委員
- ◎出席職員 北原教育長、大住教育次長、吉田学校教育課長、小松生涯学習課長、  
捧文化振興課長、宮下スポーツ振興課長、中村指導主事、唐木指導主事、  
山崎教育総務係長
- ◎出席関係者 春日伊那北小学校長、二木伊那西小学校長、尾形西箕輪中学校長

### 1 開 会

#### 大住教育次長

皆さん、こんにちは。定刻となりましたので、ただ今から今年第3回目となります伊那市総合教育会議を始めたいと思います。田畑委員さんでありますがお父さんがお亡くなりになったということで本日欠席でございます。なお、本日の会議では、協議事項の(1)に特色ある教育の取り組みについてということで、それぞれ3校の校長先生においでいただいておりますので、よろしく願いいたします。それでは、はじめに白鳥市長からごあいさつをお願いいたします。

### 2 市長あいさつ

#### 白鳥市長

あと2週間ほどで新しい年ということでもあります。今年も残すところあとわずかとなりましたけれども、各学校とも当初予定していた計画が進んでいることと思います。伊那市でもいろんな新しい産業、新産業技術に取り組み、スマート農業とか、ICT教育、ドローン、また、来年の2月、3月には自動運転も始まるわけですが、そうした地域課題を解決すべく、新たなものに挑戦するということがトレンドとなって、ある意味注目されているというふうになっています。そうしたなか、何よりも大事なものは人材であります。地域がこれから発展をし、維持し続けることができるかどうかは、人材がいるかどうかでありますので、そうした意味でも学校教育に掛けられている期待は大きいわけありますので、今日はそうした観点から様々な取り組みをしている各学校からのお話を聞かせていただいたり、そうしたことをさらに伸ばしながら、この地域全体の人材育成に取り組んでいきたいと思っております。

昨年、伊那中学校で始めたキャリアフェスティバル、また、今年は春富中学校で行ったキャリアフェスティバルですが、大変成果を上げて見えております。来年以降伊那市の教育の特色として、キャリア教育に重きを置いて取り組んでいきたい。さらに、このことについては、子どもたちのみならず、保護者のみなさんに地域のことを知ってもらおうということも肝要と思っておりますので、そうしたことも折を見て議論してまいりたいと思っております。

先日、長谷中学校で、3年生、それから1年生の参加で「市長と語りた伊那」とい

う催しを行いました。たった1時間くらいの時間でしたけれど、子どもたちは、地域のことをよく考えて、また、課題をとらえて、学校の中に持ち込んで取り組んでいるということを感じました。内藤とうがらしを使ったラー油だとか、お年寄りのみなさんの各家庭1軒1軒に花を届けるようなことをしながら話をし、学校のこと、地域のことを聞いたり見たり伝えたりと、本当に地域に根差した取り組みがされているなあと思いました。そうした子どもたちが卒業して大学に行ったとしても、是非この地域に戻ってきて過ごしてほしいという話をさせてもらいました。学校の現場においてもそのようなことが常に行われるよう、期待をするわけであります。

今日は、ICT教育、また、小規模特認校、それから、地域の森を利用した伊那北小学校の取り組み等があるわけでありますが、そうしたことから、地域の特色を上手に取り出して、子どもたちの能力を伸ばしてもらおうという取り組みをさらに進めていっていただきたいと思います。

今日は、短い時間ではありますが、様々な発表をしていただきながら意見交換をしていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

大住教育次長

続きまして、松田教育委員長、お願いいたします。

### 3 教育委員長あいさつ

松田教育委員長

改めて、こんにちは。伊那市が大事に考えている教育について、校長先生方においていただき、懇談会ができることを大変うれしく思っております。11月に行われました総合学習の発表交流会等で、伊那市の子どもたちの姿が大変成長しているということを実感しているわけですが、今日のこの会議を通してさらに充実していくための方向性が出てくればありがたいなあというふうに思っています。よろしくお願いいたします。

大住教育次長

それでは、協議事項に入りますので、以降の進行を市長にお願いいたします。

### 4 協議事項

#### (1) 特色ある教育の取り組みについて

白鳥市長

それでは、特色ある教育の取り組みについて、発表をお願いします。最初に伊那北小学校からお願いします。

資料NO. 1に基づき、春日伊那北小学校長、二木伊那西小学校長、尾形西箕輪中学校長説明

白鳥市長

3校の発表が終わりましたので、質問とか意見をいただきたいと思います。

松田教育委員長

まず、伊那北小学校ですが、3点。淀川茂重先生が「子どもたちはどこで心ゆく生活をするかといえば、それは郊外である。郊外にはあらゆる教科目が生きている。」と教えていますが、そこに連なる取り組みをされていて素晴らしいなあとと思います。そして、「希望の森」とか「造形の森」とか、森にことばをつけているんですけど、これは、子どもにすると、森が人格化してくる、そういう意味で非常に大事だと思って聞いていました。次に3ページのところに大変大事なことが書いてあるんですけど、「自然で遊ぶ、自然と遊ぶ、自然に遊ぶ」。これは、子どもの意識の深化の姿だと思うんですけど、ここは校長先生にもう少し説明していただいた方がいいと思いました。最後に地域の人々が温かい気持ちになるとか、そういうお話がありましたけれど、学校が地域のお世話になるのではなくて、学校が地域を変えていくという新たな視点だと思うんですけど、長谷中学校なんかもそういう取り組みをしています。これっってもう少し突っ込んで考えると、親学につながっていると思うんですね。そういう意味で大事にしていきたいと思いました。

それから、伊那西小学校ですけど、いよいよ特認校になりまして、大事な取り組みをしていただくわけですからですけど、要望なんですけど、19ページの伊那西小学校の今後と「小規模特認制度」についてを読ませていただきますと、例えば、「豊かな人間性を育成し」とありますね。あるいは、「社会性を向上できるよう」とありますが、いずれも抽象的な言葉なので、中身はどういうことかと聞かれた時に答えられるようにしてもらいたいと思います。そのためには、「豊かな人間性」の前に、このような「豊かな人間性」、このような「社会性」をつけてもらおうと、伊那西小学校が目指していく教育が見えてくると思って聞かせていただきました。

次に西箕輪中学ですけど、学校経営ビジョンの学校づくりのねらいのところに「生徒のよさと可能性を伸ばす学校づくり」とありますね、これは「はじめに子どもありき」の伊那市の教育理念にまさにつながる視点だと思います。往々にして学校は子どもたちにこういう課題があるので、この課題を回復するのにどうするかと教師が導く教育が多いんですけど、この視点はそうではなくて生徒のよさや可能性に置いてあるのがいいと思って見せていただきました。それから先生は度々研修という言葉を使いましたが、研修というのは、研究と修養ですので、ここに出てきているのはみな研究なんです。ですから修養の視点をどう出していくのかが大事だなあとと思いました。

最後にICT教育の中身の一つには、情報を収集してその情報を活用していくということが求められていると思うんですが、その視点が欠けているのではないかと思います。

白鳥市長

ほかにご意見等があればお願いしたいと思います。どうでしょうか。

北原教育長

最初に伊那北小学校ですけど、この体験の森・造形の森が、4ページから5ページにかけてのカリキュラムとして、しっかり位置付けられていると、こういう中に校長先生のお力、それから先生方のお力、それから地域の力が入ってきているかなと思うんですけど、5ページにあるカリキュラムが、今後、先生方、校長先生が変わられても、確かに大丈夫だよという構想をお聞きできればありがたいなあとというのが一点であります。

それから、伊那西小学校の21ページのところに理科指導についての表がありますね。これはそれぞれ地域にいる先生方、更に著名な先生方に関わっていただくことを含めて、いいかなあと思うんですが、文教大学の金子先生による理科に関わる博物館、科学館などの利用実態というものがあるんですね。これを見ていくと、科学館、博物館に行って理科に対する興味を持ったとか、役立ったとか、それで、さらに深まっていったということが書いてあるんですけど、伊那市には、そうした博物館、科学館はないんですけど、創造館にその元になるものがあると思います。それから、県内には科学館が4つしかないようなんですけど、長野にあるものが一番科学に関するものかなと、それから、ほかに東京だとか名古屋にあるんですけど、この構想の中で琴線に触れるものがあるとしたら、例えば、社会見学だとか、修学旅行であるとかに関連付けるということも考えられるかなあと思いました。

それから、西箕輪中学校の26ページのところでお話をさせていただいたデジタル教科書ですね、確かに有効であるということは思うんですけど、一つは金銭的なものがあるな、金銭的なものについては、今後、かなり入ってくるので、市町村だけでなく、学校だって教諭個人的なことも考えて行けるかもしれない、そんなことも声には出ているんです。可能性があるかどうかということが一つと、西箕輪の場合には、本当に少人数で、教員がそれぞれ研究を進めながらやるようになってきたんですが、全校へあまり早く入れていくと十分に咀嚼できないうちに、3点セットすら動かなくなってしまう危険性がないかどうか、西箕輪の場合には、よさを使っていくうちにデータが入ってきた、そうした段階がありはしないかと思うんですが、その辺をお聞きしたいと思います。

白鳥市長

それでは、校長先生方から、意見、質問に対するお考えをお聞かせいただければと思います。最初に伊那北小学校からお願いします。

春日伊那北小学校長

はい、最初に松田教育委員長から出していただいた「自然で遊ぶ、自然と遊ぶ、自然に遊ぶ」から「自然で学ぶ、自然と学ぶ、自然に学ぶ」というところで、本校もそうなんですけれど、環境が整うとすぐ「自然に学ぶ」と言いたいんですけど、なかなか難しいのではないかというのが実感です。私は哲学者の川田先生にいろいろ教えていただいている中でも、対象との出会いと交わりがいつも問題になります。そういう意味で、子どもたちがまず「自然で遊ぶ」という状況から交わりを通して「自然と遊ぶ」、最後に自然を先生として、「自然で学ぶ」というふうにしていけたらいいなあとお書かせていただきました。また、いろいろ教えていただきたいと思います。

それから教育長の言われた教師が変わっても活動が継続するという点に関しては、まさしくこれがカリキュラムの意図でありまして、この活動が始まる時に地図にも出ていますが、大野田さんや唐木さんと何度も話し合いを重ねる中で、この活動が単なる一過性のもので、私たちがいなくなったら全部なくなっちゃうということがないようにしたいということがスタートにありまして、落ち着いたところが一つはカリキュラム、もう一つは地域の方々とのつながりっていうんですかね、地域の方々、単なるおじさんではなくて、あの活動を支えてくれたおじさん、この活動を応援してくれたおじさん、一緒に活動した地域のみなさんというふうになっていくと、そこにつながりができて、それが異学年交流とか幼保小の連携を通して後輩につながっていく。

大人になったりして、森を訪れるという循環ができれば、自分たちのふるさとづくりにつながっていくのではないかと考えています。

白鳥市長

では、伊那西小学校をお願いします。

二木伊那西小学校長

「豊かな人間性」「社会性の向上」では、もっと具体的にということでもあります。上級生、下級生仲良く、そして思いやりを持ってやりたいということでもあります。それから「社会性」ということで、実は私が子どもたちに期待していることは、社会性であります。自分の意見をきちんと言えるようにすること、それから、自分から取り組むというところ、そんな点も日々の縦割りグループの中で、育ててきているところかなと思います。今後、学力の面からも自分からもっと意見を言えるようにしたい。そんなことで、社会性の面も大きく伸ばしていきたいと思っています。

教育長からのお話のなかで、4年生の科学センター、それから5年生は水族館とか、それから6年生は国立博物館とか、旅行的な行事の中での見学ということもあります。そこら辺と全体的なカリキュラムが十分練れていないと思っていますので、しっかりそこら辺のところをできるだけ素早く作りたいと思っていますけれど、関連も見ながら、この科学を見る目、それから、それに向かって追究しようとする姿勢、そうした科学的な探究力をつけたいと思っていますので、教育長さんの話を交えてカリキュラムを考えていきたいと思っています。

白鳥市長

では、西箕輪中学校をお願いします。

尾形西箕輪中学校長

I C Tの活用では、情報収集し、発信していくというご指摘をいただきました。確かに、そのとおりだと思っています。技術科ではようやく1年ぶりにパソコン教室のパソコンが使える環境にになった。1年間、X Pだったので、ホームページ等アクセスすることができなかつたんですけど、新しくノートパソコン等入れていただいて、特に技術の教科では情報の発信という基礎を学ぶことができると思いますので、ようやくそれがスタートしていると同時に、ああいう資料を活用すると教師自身の授業をデザインする力が生み出されてくると、ないわけではなくて「ああ、これを使うとこういうことができそうだな。」ということで、本校では英語科あたりがオリジナルの商品P Rビデオを英文を使って作ろうみたいな学習がありまして、タブレット等も上手に使って行うような、そういう自分たちで情報を作って発信するというようなことを、教科の中で、あるいは総合的な学習の時間の中で、十分可能だなあというなかで、今後、充実させていきたいなあと思っています。

それから、修養に関する委員長さんのご指摘はそのとおりでありまして、全くやっていないわけではなく、そこには書いてないんですが、本から学ぶ、仲間から学ぶ、それから他県から学ぶことも必要なあということ、そのあたりのことは随時いろんな発信をして、ともども考えていくことを今後も大事にしていきたいと思っています。

教育長さんからご指摘いただきましたデジタル教科書の件ですが、これは学校ライ

センスですので、例えば、東部中に入れる金額と、本校で入れる金額は同じものを入れれば、同じです。これは、合同でというふうにはなりそうにないので、学校数だけ必要になるかなあとと思います。それから、導入の段階ですけれども、これは、文科省の方で全国的に言われているのは、第1段階から第4段階まであるんですけど、第1段階はパソコン教室にパソコンを入れる。これはいいと思います。第2段階は、各教室に大きく見せる提示装置、書画カメラとできればノートパソコンの3点セットですけど、私の感覚からすれば、大きく見せるもの、プロジェクターと書画カメラがあれば、小学校は毎時間使うと思います。教科書の挿絵みたいなものを大きく映すところからスタートできますので、子どもたちが書いたノートをずっと表示すれば、表現力も発信力も育てることができるので、書画カメラが入ると随分変わってくると思います。非常に難しいのがタブレットを活用した授業だと思います。これは、第3から第4段階になっていますので、職員が使いやすい環境とすれば、冒頭述べた本校で導入したような3点セットを初めに入れ、中学であればデジタル教科書がそこに入ってくると、より稼働率が高まってくるかなあというのが私の感想です。

白鳥市長

もう5分くらいこの話題に時間を使いたいと思うんですけど、ほかにありましたら、お願いします。

原田教育委員

専門の講師を呼ぶということなんで、とてもそれはいいんですが、そういう専門の方の中からお話が出ているのが、伊那市の小学校なり中学校に行ったときに、例えば駒ヶ根ですとかへ行った時に、多少の授業として授業料的なものが支払われるらしいんですけども、「伊那市の場合それが出ないんですけどなんとかありませんか。」と言われてまして、その辺のところも少しいただければなあと思うんですが、どうなのでしょう。私は実際のところがわからないんですが。

吉田学校教育課長

実際のところは各学校に報償費として配当してありまして、その中で授業料ということで通常はお支払いしているはずであります。

原田教育委員

1時間いくらかという基準があるんですか。

吉田学校教育課長

それは先生によっても差がありますので、それぞれ学校の中で対応していただいております。

原田教育委員

对学校との話し合いになるんですか。

吉田学校教育課長

そうですね。通常無料でということは考えづらいと思います。その辺は確認してみたいと思います。

原田教育委員  
わかりました。

白鳥市長  
ほかにどうでしょうか。

白鳥市長  
私の方から、西箕輪中学校でパソコンがようやく使えるようになったという話があって、まさにネットワークだとかその辺が整備されていないというか、環境が整っていないということですね。これはもちろん教育委員会にも問題があるし、そうしたときは積極的に発信してもらって、「せっかくあるのに使えないじゃないか。」と言ってもらっていいと思いますね。それでも変わらないということ自体がおかしいと思いますので、これから書画カメラだとかパソコンだとか含めて、いろいろな環境が複雑になってきますので、今の学校間におけるネットワーク環境、学校の中の環境を調査するようにしています。どこか1か所でも詰まったところがあると、全体が遅くなってしまいますので、これを大至急調査をして環境がいいかどうか、インテリジェントハブがいいのかとか、地下ケーブルの太さはいいのかとか、サーバーの容量はどうかとか全体の調査をするよう指示をしていますので、また、その中で環境がよくなればすぐ対応したいと思います。ライセンスの数については、確かに考えていかなければいけないと思います。台数によっても値段が違ったりしますので、そこら辺も必要なものであれば導入していかなければいけないと思いますので、ほかどうでしょうか。

白鳥市長  
ほかになければこの件については、終わりにしたいと思いますが、特に伊那西小学校、小規模特認校に自然科学に軸足を置いて、いろいろなみなさんを講師に招聘したり、子どもたちが大きく伸びていくようなそんな地域づくりをしていきたいと思いますので、自然科学を学ぶために全国から伊那西小学校に来るといようなところに持っていきたいというのが私の想いですので、そんな壮大な夢を共有しながら是非進めてもらいたいと思います。  
この件についてはよろしいですか。

全委員（なし）

## （2）キャリアフェスの開催に向けて

白鳥市長  
では、続きましてキャリアフェスの開催についてお願いします。

資料NO. 2に基づき、吉田学校教育課長説明

白鳥市長

この経過につきまして、昨年伊那中学校でキャリアフェスをやって、大成功だったと思います。実はこれは上伊那広域連合主催でやりましたので、今年は駒ヶ根東中学校に行きました。来年は箕輪とか北の方に行くと思うんですが、そうすると伊那に戻ってくるのが、何年も先になってしまうということで、是非伊那市版でやりたいということで、今年は春富中学校でやりました。企業の参加が50社以上、また、生徒の手づくりで自分たちのキャリアの場所として自分たちで作ったり、中身の濃い、勉強の場としては非常にいいものだなあと思いました。私はキャリア教育というなかでは、子どもたちの職場体験等ありますけれど、一つの企業に行って3日とか4日とか、一つの企業で付きっきりで教えていくということで、いろいろな職種に接することができないわけですね。それよりも一堂に会したいろいろな職種、あるいは、伝統芸能があって、いろいろな体験をしてもらおうと、お医者さんの話とか、春富では、歯医者さんや弁護士に来てもらって、いろいろな職種に触れることができたわけですので、そうしたことを伊那市内の中学生、必ず中学校の間に体験できるようなことをやりたいということで、伊那市内の中学校2年生を対象にして、全員を集めてそこでできればなあと思いました。これは、子どもたちが対象なんですけど、実は、親のみなさんにももっと参加してもらいたいと、子どもたちがいろいろな地域の会社、職場、職種を学ぶだけではなくて、親もこれだけの企業がこの地域にあるんだと、もちろん、伊那市だけではなくて周りの市町村からも参加してもらっていいと思います。そうしたことで、学校を卒業したら、こっちへ帰ってきて、そうしたところで働いて日本を見る、あるいは、世界に飛び出せるようなそんな企業で働いていく、是非親にもそんなところを見てもらいたいと思うので、80は数合わせと言いながら、ここの数字を500とか1,000とかね、いうくらいになれば、生徒と親御さんともどもいろんな話ができるのではないかと思います。

中学生サミットも今まで何度もやってきているんですけど、あれも中学を代表した生徒会の生徒会長と副会長の優秀な連中が出てきて、ただ話をするだけという考えも見方を変えればあるんですけど、ある意味、中学生の主張だとか、市長と語るだとかいう場を設けてもらえば、かなりいろんな生徒たちと会話ができるのかなあと思いますが、是非検討してもらいたいと思います。

それともう一つは、このキャリアフェス、かなり大がかりになります。何かを削らないとここに集中するということは難しいので、削るものがあれば削ってこっちに入れ込むとか、役目が終わったのであれば、それに代わってこのキャリアフェスでやりましょうということでもいいと思う。さっきの職場体験もやめるとか吸収してこちらで各職場のことを学びましょうということも選択としてあっていいと思うし、学校の中でどう考えるかは別にして、中学生サミットも入れてこれでやりましょうとか、新しいことを始めるとすごくエネルギーがいるんだけど、これを継続してかなければならないので、従来のを吸収できるものは切っていくということもしてもらいたいと思います。

これだけ大掛かりなキャリアフェスっていうのは、おそらく全国でも例がないと思うので、伊那市版のキャリアフェスを子どもたちも親も自分の人生の選択のなかで、非常に大事な日だったなあとと思うような仕掛けをしてもらいたいと思います。どうでしょうか。ご意見をいただきたいと思うんですが。

松田教育委員長

今の市長さんのお話のようなんですけども、従来の職場体験というキャリア教育

の概念を打ち砕く、今子どもたちが目標を失っているとよく言われますけれど、このキャリアフェスによって、自分自身の将来の見通しを自ら立てていく、そういう時間になっていくと思います。それが何が基になっているかと言うと、これは、教科の学習でもそうなのですが、AとB、あるいはCを比較することによって、Aが見えてくるといふことがあるんですが、職場体験の場合は、Aしか見えていないので、見えてこない。いわゆる教育の原理である比較学習を取り込んできていると、そういう視点で先生方は受け止めてもらいたいと思うんですね。そうすると余計に子どもの選択の様子が見えてくるといふふうに思います。

それが2点目で、3点目は、お話のようにお母さん方ほどの高等学校に行くかについては非常に興味があるんです。ところが、伊那市のなかにはこういう仕事があるとか、企業があるとか、非常に疎くて知らないでいる人がたくさんいると思いますので、是非保護者にたくさん来てもらって、子どもとともに地域の企業を学ぶということを大事にしてもらいたいなあと思います。

#### 宮脇教育委員長職務代理者

1点目は、意見の中に「全員で何かを作る」というのがあるんですけど、せっかくこれだけ全部の中学校が集まって、世代が一堂に会するので、作るまでは行かないまでも、全員で歌を歌うでもいいんですけど、一体感が持てるものが一つあれば、みんなが集まったなという気がします。

語るという中で、市長さんの方でも語りたいたいということがあったので、是非時間を設けて、中学生と話ができればいいと思います。この前、東部中学校の文化祭に行って、企画のなかで「こんな伊那市になってほしい」というのを子どもたちが発表する場があったんですが、会場に投げかけて、子どもが言うんですけど、男の子は中学の男の子なんで、「スカイツリーがほしい。」とか「もっと都会になってほしい。」とか言っていたんですが、女の子は全然違っていて、一人の女の子は「水と空気がきれいなままの伊那市であってほしい。」という子がいました。もう一人、これは友達と二人で声を合わせて言ったんですが「今のままの伊那市がいい。」という子がいました。そういう中学生の感性というか、そういうところに至るまでの話はみんなで語り合えば奥が深いんじゃないかという気がするんで、そういうみんなで語り合える、特に市長さんを交えて語り合える時間があればなおいいかなあという気がします。

#### 白鳥市長

東部中学校は去年だったかな、おとしだったかな、3年生全員と「語りた伊那」をやったことがあって、僕が話をする前と後ではみんな意見が変わった。知らなかったということがあるし、「伊那がそんなにすごいと思わなかった。」「私はずっと東京に行って勤めるつもりだったけれど、伊那にいたい。」という話をしたので、あるいは、春富中学校でもすごい熱気の中で子どもたちと話をしたんですね。ああいうのって、エネルギーはいるんだろうけど大事な場だなと思ったので、これを全部やるわけではないにしても、ポイントを絞って続けると他にないような、中学生のエネルギーを引っ張り出せるようなそういう場所になるのかなあという気がするんですね。それで、主体が子どもたちというのがまず大事で、すごい、最初どこの企業の人に来てやっているんだと思ったら、子どもたちで、中学生だったんですね。あれは、驚いたというのが、春富の印象でしたね。ほかはどうですか。

## 北原教育長

スクラップアンドビルドっていうんですかね、先ほど出た語る場っていうのは、中学生サミットに代わるもっと大きな全体の輪になるので、一部だけではない、できれば合同での機会を一番考えていましたし、いいことじゃないかな。内容については、また、検討します。

先ほどこのキャリアフェスを職場体験と置き換えるかということについては、職場体験の企業さんともう少し精査をしていきたいんですけど、前に職場体験に迎えてくださった会社にみなさんが「最近は大卒社員がいないので、新しく1週間なり3日なり迎えるにあたって、社員が緊張して元から見直したと言われて、とても貴重な体験だった。」と、これがビジネスブースに置き換えることが可能かどうかということを含めて、こうしたよさを大事に、子どもたちも学ぶんですが、企業さんもそういう話をしてくださったので、したいなあと思いました。

いずれにしても、4年前に産学官の交流会があったんですが、その時のスタートが、「とにかく学校のみなさんや子どもたちや保護者のみなさんは企業や会社のことを知らないんだ。」ということを含めて、ということをおりだなあというなかから、ようやく学校は少しずつ知ってきたんですけど、すべての子どもが体験できるというそのサイクルができるということは素晴らしいことだと思いますので、置き換えられるとすればですし、そうでないとしたら、また、考えていかなきゃいけないかなと思います。

## 白鳥市長

企業の都合もあるんでしょうけれど、自分のところで解決すればいい話かなと思いますけど、選択肢がいっぱいあるということは大事なことだと思いますので、キャリア教育の伊那市版がこれから動き出していくとすれば、これに関わるパワーって膨大なものになるので、今の仕事プラスということになると大変なことになると思うんですね。あえて、切れるものを切るという選択をしていかないとできないかなあと、それから企業のみなさんも毎年という、それも結構大変だと思うんですよ。そこら辺をどういうローテーションで回していけるのか、毎年来てくれるようなでかいところもあれば、従業員がいないので来られないというところはまとめてブースを出すとかね、そういうような工夫をしながらできるだけ負担を小さくする方向ででかいことをやりたい。ほかどうでしょうか。

## 原田教育委員

各企業に生徒さんたちが行くというのは、割と古い業態だったりすると思います。例えば、配達の人に1日中乗ったままいるとか、体験と言うには、その企業さんも不足かなあというふうになりがちなので、こういうフェスでは経営者から直接熱い気持ち、思いが伝わっていいなあと思います。それから、食のところでは、五平餅とかローメンといった地場に根付いた食があるんですが、例えば、IターンとかUターンで帰ってきて、農業が盛んになってきている、新しい農の形というものが出てきていると思うんですね。例えば、同じ大根であったり野菜であっても機能性の高いものを作るという栽培方法が注目されていますし、信大等の先生たちもそういうことに力を入れられておりますし、将来のビジョンとして若い人が参入できる農の形を模索するというのも、今だんだんに取り組みされているけれども、更に若い人たちが積極的にこれはいいね、やりたいねという方向に持っていけると、伊那市の自然とか遊休農地とかを活用するといった意味でも、将来的なものが見えるように、子どもたちがわく

わくしてできるような形を提案できればいいなと思います。

白鳥市長

今、その話を聞いていて思ったのが、例えば、林業の高性能機械とか、昔の林業、昔の農業とここまで変わっているよということを実際に見るということが大事だと思うので、建設業者のみなさんが機械を持ってきて実演して見せるとか、触らせてみせるということもやり方としてはできるかもしれない。まあ、そういう場所があるかどうかだね。

松田教育委員長

この食の中にどうしてそばが入っていないんですか。

吉田学校教育課長

たまたま、その時の意見の中になかったということです。上がっていませんでした。

松田教育委員長

信州そば発祥の地なので、そばがなくちゃ。

白鳥市長

ガレットとかね。

原田教育委員

そばもいろいろな食べ方がありますからね。そば粉をそのままかいてもいいですよね。

白鳥市長

よくポイントを絞りながら、衛生面もあるだろうし、例えばこの中で給食の先生に手伝ってもらおうとか、どうせ学校には生徒はいないので、一緒にやってもらおうとか、そういうことが一体感としていいなと思うので、計画してみてください。

吉田学校教育課長

はい。

### (3) ICT機器を活用する中での学力向上について

白鳥市長

それでは、2番を終えて3番。

資料NO. 3に基づき、吉田学校教育課長説明

白鳥市長

アンケートと教育界の中での実際の正答率等の数字、グラフを見てもらったんですけど、私も見に行った時が導入して間もなくだったんですが、子どもたちが先生を指導しているような場面も見られたんですね。「先生、そこじゃなくてこうでいいん

だぜ。」とか、そうした点については、慣れてくれば心配ないと思うけど、子どもたちの理解が早いのかなという気もしました。ICTについてはどうでしょうか。いろんな意見をいただきたいと思いますし、来年度どういう形で導入していくのか、学校別にだんだん入れていくのか、あるいは学年別なのか、小学校優先、中学校優先、予算も最終の場面でありますので、いろんな意見を出してもらいたいと思います。

北原教育長

今の学校別か学年別かなんですけれど、現在入れている学校もそうなんですけれど、すべての教員が一斉に研修したり、活用について研究したりすることを考えると、学校別が進みはいいのではないかと思います。

白鳥市長

今日、西箕輪中学校を聞いたんだけど、例えば、小規模の新山小学校とか手良小学校はどんな感じだか聞いているか。

吉田学校教育課長

特に支援の必要な子どもたちに、ここだよというのがすぐ見えるので、そういったところが特にわかりやすく、示しやすくなったと聞いています。実際に行ったところでも、そんな状況でありました。

白鳥市長

はい。学校別の導入がよかろうという話もあります。ほかにどうでしょうか。そのことだけでなく、全体のことでも結構です。

宮脇教育委員長職務代理者

少し教えてもらいたいんですが、小学校、中学校で比べてこのグラフの単位が違うのでわからないんですが、どちらが頻度的に使っているんでしょうか。やはり中学校の方が使っているんでしょうか。

吉田学校教育課長

はい、小学校の場合には、担任の先生が全教科を持っているものですから、頻度から言うと先生の使い方によるところが大きいというところは感じました。

白鳥市長

あるクラスは先生が使っていないということですか。

吉田学校教育課長

そういう可能性はあります。逆に中学校の方は市長の方から話がありましたように、生徒の方がどんどん使っている状況で、先生に教えてあげていることもあるようなので、それに連れて使っている傾向はありまして、特に教科で言うと、数学とか理科、あと社会等では頻繁に使っているという状況はありました。

北原教育長

教育支援員やコーディネーターが小学校にも入っているんですけれど、学校によっ

てそれだけでは回り切りませんので、堪能な教員のいる小学校は毎週のように使っている回答をいただいているところもあるんですけど、わかった人がいないと支援員やコーディネーターが来た時には、やっってもらうんだけど、あとはわからないという状況が小学校ではあります。

白鳥市長

そうすると中学校に導入していくということがいいですかね。今、西箕輪と長谷に入っているの、例えば、来年はここここに入れますということになれば、異動は別にして、先生が今から研修をしておいて、導入と同時に使えるように、東部にドカンと入れるとか、東部以外に入れておいて、最後に東部に2回に分けて入れるとかね、お金もかかるよね。一式いくらだっけ。

吉田学校教育課長

1教室50万円です。

白鳥市長

春富だったらいくらになるんだい。

吉田学校教育課長

12教室で600万円です。

白鳥市長

来年導入する予定ではいるんですけど、学校別なのか、学年別なのか、小中学校別なのかその辺のところをお聞きしたかったんですが、今日の話だと学校別に導入していくのがいいだろうと、それで中学校ですかね、そんなお話をいただきました。検討してみてください。

吉田学校教育課長

はい。

白鳥市長

ほかどうでしょうか。

全委員（なし）

白鳥市長

それでは、この件は以上とさせていただきます。

大住教育次長

ありがとうございました。時間が限られている中で貴重なご意見をいただきありがとうございました。

以上をもちまして、第3回伊那市総合教育会議を閉会とさせていただきます。

ありがとうございました。